

日本テコンドー協会・有段者
医師国家試験合格 第2号

近藤拓也

(JTA初段。横浜鶴見テコンドー倶楽部)

写真準備中

横浜市立大学医学部2年生の春、JTA横浜鶴見テコンドー倶楽部に入門した近藤拓也が、昇段審査実技試験に合格した後、医師国家試験にも合格。
多忙な研修医1年目の最中、昇段審査論文を提出・合格し、
JTA第2号(東京城南道場少年部で昇段した後、医学部に合格した吉田が第1号)の医師となりました。
おめでとうございます！

河明生会長談

「我が日本テコンドー協会の七大精神第2条に、我々は文武両道を志すこと、とあります。
近藤拓也は、この精神を具体化する第一歩を踏み出しました。おめでとう！

かつて横浜市立大学体育会テコンドー部の主将から

「横浜市立大学テコンドー部のホームページ宛に、高校生の受験生から

一医学部に合格し、テコンドー部に入部し、一緒にテコンドーをしたいです！

というメールをもらいました」

と報告を受けたことを覚えています。

おそらく受験生時代の近藤だろうと思われれます。

私は、近藤を直接、指導したことはありません。

ただ、彼を指導する武田から医学部学生である、と報告を受けていました。

周知の通り、医学部は学ぶことが多く、まさに修行といえる学部です。

経済的負担も大きい。

昇段審査の実技審査の際、見学していた父親と思われる男性が、

一どうして息子は医学で多忙なのにテコンドーをがんばるのだろうか？

と息子の心を理解せんと真剣な眼差しで私・河を観察していたことが記憶に新しい。

また、審査の最中

一この若者は、澄んだ眼差しで私を見てくれているな

と観じたことがあります。

思うに、武道師範の醍醐味は、あらゆる分野に有意義な人材を送り出すことにあります。
実技も上手かったので、昇段審査後に

一近藤！ 立派な医師になれよ！

と激励しました。

その含意は、国家試験合格後、

一損得勘定の「医者」ではなく、尊敬される「医師」になれ！

ということです。

かつての目の輝きを忘れずがんばって欲しい」

